

特定非営利活動法人パクト  
令和元年度(2019年度) 事業報告

自 令和元(2019)年10月1日  
至 令和2(2020)年9月30日

目次		
1.	復興サポートステーション事業	4頁
2.	子ども支援事業	
A.	平日の子どもの居場所づくり活動・『みちくさハウス』	9頁
B.	子ども支援ネットワーク会議運営	10頁
3.	二又復興交流センター運営事業	12頁
4.	陸前高田市グローバルキャンパス施設管理業務	13頁

## 1. 復興サポートステーション事業

実施範囲、期間	範囲：陸前高田市 期間：平成 25 年 1 月より継続
活動資金	復興庁復興交付金事業、自己資金(寄付金、会費)
事業実施の経緯	陸前高田市復興サポートステーションは、災害ボランティアセンター閉鎖直後の 2013 年 1 月に、同センターの業務を引き継ぐ目的で開所した。
事業目的	東日本大震災で甚大な被害を受けた陸前高田市を中心において、震災により被害を受けた方々に対して、地域密着型の継続した支援事業を行い地域の復興、復興後の地域活性化に寄与する。 2012 年 12 月に閉鎖した災害ボランティアセンターの業務を引き継ぎ、ボランティア活動の拠点としてボランティアの受け入れ及び派遣を行うことで、住民ニーズに応えるとともに、陸前高田を訪れるきっかけを提供する。 これまでの経験やノウハウを活かし、復興教育や災害対応研修に寄与することを目指す。
受益者	陸前高田市民
事業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 被災者並びに市民要望のとりまとめ</li> <li>2. ボランティアの募集・受付</li> <li>3. ボランティア活動終了後の管理</li> <li>4. コーディネート</li> <li>5. 情報発信</li> </ol>
ボランティア活動者数	個人計：114 名 団体計：172 名（のべ 5 団体） 合計：286 名
今年度の具体的な活動と成果	<p><b>1.被災者並びに市民要望のとりまとめ</b></p> <p>仮設住宅を中心にチラシを配りながら、ニーズの聞き取りを行った。仮設住宅の集約に伴う引っ越しの手伝いは、予想より少なかった。新型コロナウイルス感染拡大の影響により、訪問を見合わせた時期もあった。買い物補助や通院補助、窓拭き、引っ越し前後の掃除等、ほとんどが高齢者世帯や障がい者からの依頼となっている。中には「他の機関に相談したが断られた」という内容で、ケアマネージャーや支援員から相談されるケースもあった。</p> <p>ボランティア活動件数はのべ 76 件となった。</p> <p>生活支援—————58 件 引越し補助—————13 件 農業支援—————2 件 その他—————1 件</p> <p>・生活支援について</p> <p>除草——仮設住宅、耕作放棄地、自宅跡地等の草刈や草取りを行った。 自宅再建や公営住宅に引っ越すなどして、仮設住宅を退去する世帯も多く、仮設住宅に残る人たちだけの環境整備がなかなか進まない状況となっている。そのような背景から区長から除草の依頼をいただいた。また、高齢により、いままで何とか自分で出来ていたことが出来なくなり、業者等に依頼するにも金銭的に難しい方も多く、ボランティアにお願いすることで安心される場面が多くみられた。</p>

	<p>片付け—災害公営住宅への引っ越し前後の片付けや掃除を手伝った。依頼者にはそれぞれの背景があり、それを考慮しながら活動した。特に高齢者世帯や障がい者の一人暮らしの方等については、ケアマネージャーや支援員と相談しながら、依頼者のペースに合わせて進めた。</p> <p>引越し—仮設住宅の集約による仮設から仮設への引越しの補助、また、引っ越し後の仮設住宅の清掃の補助を行った。</p> <p>買い物—基本的にスタッフで対応している。障がいがある方は、月に一度の買い物を楽しみにしており、ケアマネージャーと日程調整をしながら対応していたが、コロナウイルス感染予防のため、中止とした月もあった。</p> <p>・<b>農業支援、漁業支援について</b>  震災の影響により慢性的に人手不足が続いていた農業・漁業について、前年度まではボランティアで対応できる範囲で手伝っていたが、今年度は依頼も少なくなり、コロナウイルスの影響もあって、ほとんど手伝いはなかった。</p> <p>・<b>その他</b>  子ども支援事業のデイキャンプで、子どもの見守りなどを行った。  地域サポート会議に出席し、各団体との情報交換に努めた。</p> <p><b>2. ボランティアの募集・受付</b>  昨年 10 月に台風による被害があった地域にボランティアが集中したため、陸前高田市での活動者数は減少した。また、3 月以降のコロナウイルス感染拡大による、緊急事態宣言が発令され、ボランティア受入を休止せざるを得ない状況となった。緊急事態宣言が解除になって以降は感染者が出ている地域からのボランティア受け入れを見合わせている。ボランティアの数は減っているが、年間 286 人がサポートステーションを経由して活動している。</p> <p><b>3. ボランティア活動終了後の管理</b>  ボランティア活動実施報告書に記入してもらい、それを基に資材の紛失や、ボランティアの怪我の有無などを確認し、大きな問題なく活動を終了することが出来ている。  活動終了後、ボランティアに感謝を伝えに来る依頼者も多くいる。  破損した資材については、スタッフが修理し、次の活動に支障がないよう努めた。</p> <p><b>4. コーディネート</b>  新規ニーズがあった場合は、現場確認とともに依頼者からの聞き取りをしっかりと行い、ボランティアを必要とする背景の把握に努めた。聞き取った内容をニーズ表にまとめ、オリエンテーションを行うことで、活動の内容を理解してもらった上で活動場所に向かった。</p> <p><b>5. 進捗管理</b>  日々、活動報告書を作成している。月毎の活動者数や活動内容についてまとめ、毎月市役所に提出する。ボランティアの人数集計や、活動したニーズの詳細を入力している。活動の目安がわかりやすくなり、マッチングの際にも役立っている。</p>
--	---

	<p><b>6. 情報発信</b>          コロナウイルスの影響により活動休止期間があった事や、依頼者のプライバシー保護の為、活動内容を発信できなかった。ボランティア受入の状況等は随時ホームページや Facebook で発信したため、大きな混乱はなかった。</p>
<p>今後の課題</p>	<p><b>1. コロナウイルス対応</b>          コロナウイルス感染拡大防止のため、感染者が出ている地域からのボランティアの受け入れを休止しているが、ボランティアが少なくなっているため、今後の状況に合わせて受け入れ状況を変更し、ホームページやフェイスブック等で周知する。</p> <p><b>2. 資金の確保</b>          これまで運営資金として補助金(復興交付金)をいただいて活動してきたが、2021年4月以降の補助がなくなることになった。引き続き民間助成金を申請したり、寄付金を募る。</p>

## 2. 子ども支援事業

### A. 平日の子どもの居場所づくり活動・『みちくさハウス』の実施

実施範囲、期間	陸前高田市米崎町にて2017年1月より継続
活動資金	いわて生協被災地支援活動助成金、積水ハウスマッチングプログラム、東日本大震災復興支援財団、森村豊明会、寄付金
事業実施の経緯	当団体が2011年から行ってきた子どもの居場所作り・『みちくさルーム』を発展させ、子どもたちが自らの暮らす地域の中で気軽に集える遊び場を作るべく、当事業を開始した。
事業目的	『みちくさルーム』の活動を発展させ、主に以下の3点を目的に事業を実施する。 1. 子どもが子どもらしく過ごせる居場所の創出 2. 子どもの主体性を育み、将来に対する可能性、選択肢の多様性の提示 3. 次世代のまちの担い手となる子どもたちの定住およびUターン等の促進
受益者	陸前高田市に暮らす子どもと保護者・近隣住民
事業内容	米崎町内の古民家を活用し、安全な環境の下自由に過ごせる常設の遊び場/コミュニティスペース・『みちくさハウス』を運営した。原則毎週水曜、金曜、土曜の午後に開所した。 2019年10月から2020年2月までは、週末に季節にちなんだ活動を実施したり、大学生ボランティアの受け入れを行っていたが、2020年3月からはコロナウィルスの影響により、これらの活動は休止となった。加えて、3月にはコロナウィルス感染拡大防止のため、陸前高田市内の小中学校が休校となり、その期間中はみちくさハウスも活動全般を休止した。その後、休校期間中の子どもの居場所のニーズの高まりを受け、対象を限定し感染症対策を行った上でみちくさハウスを開所した。 4月後半の休校期間中は、みちくさハウスも活動を休止し、その間は施設内の整備活動を行った。 5月は、土曜日みの開所とし、感染症予防のため、3密を避け屋外を中心とした活動を行った。 6月からは通常通り水・金・土の午後開所し、それに加え、休校期間中に生じた学習の遅れや、学習週間の乱れを解消することを目的に、土曜日の午前中に『みちくさ自習室』として、学習サポートの時間を設けた。 7月には、開所3周年の記念イベントとして、『みちくさハウスデイキャンプ』を実施。当初は前年同様宿泊を伴う活動を企画していたものの、コロナウィルス感染予防のため、日帰りのイベントとして実施することとなった。 8月の夏休み期間は、『みちくさ拡大版』として平日も午前中から開所し、午前中は宿題時間、午後は通常の活動を実施した。 9月からは、週末の特別企画を再開し、地元在住の大工の方を講師に招き、木工教室を開催した。

今年度の成果

1. 定量的成果

みちくさハウスの月ごとの開所日数、来所者、ボランティア数は以下の通りである。

(1) 開所回数

年/月	開所日数	年/月	開所日数
2019年10月	11	2020年4月	6
2019年11月	13	2020年5月	3
2019年12月	14	2020年6月	12
2020年1月	10	2020年7月	13
2020年2月	12	2020年8月	11
2020年3月	10	2020年9月	12

合計 127

(2) 来所者数

年/月	利用者					計
	未就学児	小学生	中高生	保護者	地域	
2019年10月	43	92	0	46	12	193
2019年11月	60	142	0	63	9	274
2019年12月	29	96	0	36	10	171
2020年1月	39	80	0	47	8	174
2020年2月	47	106	0	57	8	218
2020年3月	17	71	0	22	4	114
2020年4月	11	44	2	12	1	70
2020年5月	2	21	6	6	1	36
2020年6月	24	103	5	47	1	180
2020年7月	46	133	6	65	4	254
2020年8月	20	96	8	31	2	157
2020年9月	22	83	4	41	3	153
合計	360	1,067	31	473	63	1,994

## (3) ボランティア数

年/月	ボランティア				
	サポステ	関係者	地域	学生	合計
2019年10月	1	9	0	4	14
2019年11月	0	3	1	5	9
2019年12月	0	9	0	5	14
2020年1月	0	3	0	0	3
2020年2月	0	4	0	8	12
2020年3月	0	1	4	13	18
2020年4月	0	0	0	0	0
2020年5月	0	0	0	0	0
2020年6月	0	0	0	0	0
2020年7月	3	2	6	3	14
2020年8月	0	3	0	0	3
2020年9月	0	8	7	0	15
合計	4	42	18	38	102

## 2. 多様な体験の機会創出

2019年10月から2020年2月までは、前年度に引き続き、週末を中心に、様々な企画を実施した。

2020年3月からは、コロナウィルスの影響により、人が密集したり、調理を伴うようなアクティビティや、県外からボランティアが参加するイベントについては全てキャンセルとなったものの、1年間を通じ、以下の企画を実施し、子どもの体験の機会につながるよう尽力した。

年月	日	アクティビティ内容
2019年10月	5日(土)	稲刈り体験
	9日(水)	エアメールワークショップ
	26日(土)	ハロウィンパーティ
2019年11月	9日(土)	焼き芋大会
	16日(土)	エプロンクラブ
	30日(土)	どら焼き作り
2019年12月	7日(土)	コラボ企画・紙飛行機教室
	14日(土)	クリスマスリース作り

	21日(土)	年末企画・鍋会
	27日(土)	子ども忘年会
2020年1月	11日(土)	年始企画・みずき団子作り
	18日(土)	餅つき大会
2020年2月	8日(土)	節分企画・豆まき大会
	15日(土)	バレンタイン企画・チョコレート作り
2020年3月	1日(土)	筑紫女学園大学交流会・ヒンメリ作り
	16日(月)～19日(木)	休校期間中、日中保護者が自宅不在の子どもを対象に、自習室の開所、プラ板作り、スライム作り等のアクティビティを行った。
	28日(土)	卒園・卒業を祝う会
2020年4月		コロナウィルス感染拡大の影響により、イベント等の企画は自粛
2020年5月		
2020年6月		
2020年7月	25日(土)	みちくさハウスデイキャンプ
2020年8月	5日(水)～8日(土)	みちくさハウス拡大版として、4日間、午前中は、自習室、午後は通常の活動として開所した。
2020年9月	19日(土)	木工体験教室

### 1. 3. コロナウィルス感染流行下における対応

2020年3月以降は、コロナウィルスの感染流行を受け、他団体との協働企画等も全てキャンセルとなり、県内外からの大学生ボランティアの参加も中止となった。さらに、3月半ばからは学校の休校を受け、みちくさハウスも数日間活動を休止した。その後、休校期間中も仕事を休めない保護者が多く、平日の子どもの居場所のニーズが高いこともあり、平日の日中子どもが過ごせる場所として、感染症予防対策を行った上でみちくさハウスを臨時開所したところ、保護者からは「日中自分が家にいられないので助かる」といった声が寄せられた。

3月以降、コロナウィルスの影響により状況が日々移り変わる中、学校の休校に合わせての臨時開所や週末のみの開所など、その時の状況に合わせて調整しながらの運営を行った。

5月からは、3密を避け、屋外を中心とした活動を行ったり、施設内の消毒の頻度や範囲を増やしたり、検温を行うなど、コロナ禍以降の「新しい生活様式」に沿った事業運営を行っている。その結果、コロナウィルスのみならず、その他の感染症の発生リスクも軽減することができたと考える。

### 4. 他団体・市民との連携、協働



	<p>2020年3月以降は、前年のように外部の方々との協働企画・イベントの実施はできなかったものの、休校期間中の臨時開所期間に、他団体の職員が応援スタッフとして活動に参加くださった。また、7月のデイキャンプでは、地域の行政職員やそのご家族がボランティアで活動にご参加いただくなど、他団体との連携や市民の活動参加により、人手不足の課題を解消することができた。</p> <p>9月からは、コロナウィルスの影響で自粛していた特別企画を再開し、地元の大工を講師に招いた木工教室を企画・実施した他、10月以降もプログラミング教室など外部講師を招いた体験教室を実施する予定となっている。</p>
<p>今後の課題</p>	<p>1. 資金の確保</p> <p>2020年はコロナウィルスの影響もあり、団体運営もこれまでにない程の苦境に立たされ、例年以上に資金の獲得が難航した。そのため、今年度は団体の状況と寄付のお願いを記載した記事を団体のHPとSNSで発信し、100万以上の寄付を獲得するに至ったが、事業を継続し団体を維持するためには、さらなる資金の獲得が必要不可欠である。</p> <p>2. 人手不足</p> <p>昨年度のスタッフ4名体制から、1名の退職に伴い、人員が3名になったことに加え、2020年3月からはコロナウィルスの影響により大学生ボランティアが、活動に参加できなくなったため、特に参加者の多い週末は人手が不足する事態となっている。現状では、県外からのボランティアを募ることは現実的ではないため、陸前高田市内や近隣市町村在住の方にご協力を募るなど、コロナウィルスの状況下にあってもできることを考え実践することが必要とされている。</p> <p>3. 事業の今後に関して</p> <p>東日本大震災から10年を迎えようとする現在、子ども支援事業に関しては、「日常を取り戻す」、「遊び・学び環境の復旧」というニーズは終わりを迎え、本事業も一定の役割を果たしたと考えられる。本事業のゴールをどの時期に設定し、それに向けどのように事業を展開・完結していくかは、今後団体で検討すべき事項である。</p>

B. 子ども支援ネットワーク会議運営

実施範囲、期間	範囲：陸前高田市にて活動する子ども支援団体 期間：平成23年11月より継続
活動資金	寄付金等自己資金
事業実施の経緯	震災後、多種多様な支援団体が、陸前高田において子どもを対象とした支援活動を実施する中で、複数の団体による支援が重複する地区や、支援の行き届かない地区が見られることが問題視されたことを受け、陸前高田市における子ども支援のマッピングを行い、団体間で子どもに関する情報やニーズを共有するために、同会議が発足された。
事業目的	陸前高田市内で活動する子ども支援団体や、市内の教育機関、保護者が、子どもに関する情報を共有しあい、お互いに協力しあえる体制を作ることを目的とする。
受益者	陸前高田市内の子ども、保護者、教育関係者
事業内容	月1回の『子ども支援ネットワーク会議』（以下「子ども支援NW会議」）を運営した。支援活動や市内の子どもに関するニーズの共有や感染症対策などの情報共有を行った。加えて、会議後に議事録を登録団体にメール送付した。コロナウイルス感染拡大防止のため、2020年4月から6月までは、会場に集まる形での会議開催を休止し、オンライン会議の導入を行った。その後7月から、会場での会議開催とオンラインを並行しながら会議を行なった。
今年度の成果	<p>1. 1. 団体同士のつながり、情報・意見交換の場の提供</p> <p>2020年度も会議体を継続して運営し、子ども・子育てに関わる団体・個人が定期的集まる機会を創出することができた。年度の後半はコロナウイルス感染症拡大の影響により大人数での会議開催が困難になったため、オンライン会議を導入した。そのため遠方からも参加が可能となり、県内外の個人や団体が感染症に関しての情報をスムーズに共有できた。</p> <p>2. 情報の集約と活用</p> <p>会議内では、コロナウイルス感染症に関しての県内外の情報や、子ども・保護者を対象に実施されたアンケートの調査結果などの資料を共有し、団体としても活動の中に取り入れるなどして子どもたちへの関わりの中で情報を活用することができた。</p> <p>また、会議で運用しているメーリングリスト（ML）の機能を活用し、毎月行っている会議の議事録だけでなく、各団体主催のイベントの際のボランティア募集やオンライン研修に関する情報をML登録者に発信することができた。</p>
今後の課題	2017年度のべ82団体、2018年度はのべ73団体、そして2019年度はのべ87団体（毎回平均7団体）が参加している。会議への参加団体数は増加したものの、参加団体が固定化されており、新規参加の団体が少ないことが課題である。震災発生から10年が経過しようとしている現在、県外・市外の団体も陸前高田での活動を終了し、地元で活動する子ども・子育て支援団体の数も限られている。こうした市内の子ども・子育て支援団体の現状を受け止めつつ、これまで会議に参加したことのない団体や個人でも参加しやすい場づくりが求められる。

### 3. 二又復興交流センター運営事業

実施範囲、期間	範囲：陸前高田市 期間：平成25年7月より継続
活動資金	事業収益、持続化給付金
事業目的	事業を通じ、新たな『縁』や『陸前高田市を訪れる動機付け』を含めた交流人口の増加促進、また同事業を遂行するための職員雇用や各種関連会社などへの業務契約、宿泊者による市内での消費活動など、陸前高田市全体における雇用促進と地域経済の活性化一助となることを目的とする。
受益者	陸前高田市を訪れる人々 陸前高田市市民
事業内容	・施設運営管理：フロント受付業務、施設運営、施設清掃、設備機器維持管理業務 ・情報発信
今年度の営業実績	2019年の利用者数は前年度同時期比43.1%に減少、2020年になってから全国的な新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、予約のキャンセル、行政からの営業自粛・休業指示等有り7月下旬まで宿泊利用客無しの状態が続いた。例年繁忙期であるゴールデンウィークや7～8月の夏季の休業等の影響が大きく前年比-92.5%と大幅に利用者数が落ち込んだ。 国や市からの給付金・支援金等を申請、受給しているが売り上げ減少による損失額を補うには十分ではなく支出の削減努力をしているが団体年度で-410万円程の赤字となった。 ※上記赤字額に受給済の持続化給付金(200万円)、新型コロナウイルス感染症対策中小企業緊急経済支援金(20万円)、新型コロナウイルス感染症対策中小企業持続化支援金(20万円)は含まず。
今年度の目標に対する成果	1. 指定管理契約の現契約の終了年であることから、以降の事業継続、またそれに付随する契約更新のために、運営体制・収益構造の改廃を図る。 ・冬季休業(12月～2月)期間の導入 →冬季休業期間外の利用客減少(前年比約12%)が大きく、赤字収益の圧縮効果は目に見えるほどではなかった。 ※営業再開予定の令和2年3月以降も新型コロナウイルス感染症拡大防止策の為、陸前高田市より営業自粛(休業)指示有。 6月より営業再開したが陸前高田市より当施設を【新型コロナウイルス感染症にかかる感染者等の家族緊急一時預かり事業】への運用変更決定を受け、8月16日より一般宿泊利用客の受け入れを休止している。  2. 必要な情報発信 ・法人HP、FBの更新(適宜) →新型コロナウイルス感染症拡大を受け、県内・市内の状況を見つつ発信した。 ・施設パンフレットの更新(適宜) 一般向け簡易宿泊所としては終了したのでパンフレットは更新しなかった。  3. 中長期的な視点での調査および企画の実施 ①増加傾向にある学校行事や部活・ゼミ等の合宿、移動教室や修学旅行といった学校案件の取り込みを推進していく。 →主に当施設の利用実績がある企業、団体、個人、学校等に今後の宿泊を含めた陸前高田市への来訪やイベント開催の予定を問い合わせていたが、今年に入り新型

	<p>コロナウイルス感染症拡大による全国的な行事・イベントの自粛や中止、休業指示による予約済のお客様への説明・キャンセルのお願い等の対応に終始した。</p> <p>②閑散期への対策として『株式会社 宿泊予約経営研究所』と協働で『じゃらん net』『楽天トラベル』『一休』『KNT ē 宿』といった宿泊予約サイトでの客室販売を継続実施する。</p> <p>→旅行予約サイト4社『じゃらん net』、『楽天トラベル』、『一休』、『KNT ē 宿』の契約解除(2020年9月)</p> <p>宿泊予約管理システム『新日本コンピュータサービス株』の契約解除(2020年9月)</p> <p>③交流人口増加に向けた取り組みの一環として、法人間連携、官民連携への取り組みの強化。</p> <p>→コロナウイルス感染症拡大に伴う休業指示により、新たな取り組みはできなかった。</p> <p>4. 地域活性化『交流施設』としての利用促進</p> <p>・陸前高田市の推進する『はまっつけらいん、かだっつけらいん』への参加(随時)</p> <p>→【預かり事業】開始前までは地元の方々に気軽に立ち寄りいただいていたが開始後現在は施設受入対象者が不在時でも関係者以外の立ち入りはご遠慮いただいている</p>
今後の課題	<p>一般宿泊利用客の受け入れは休止しているが、引き続き【新型コロナウイルス感染症にかかると感染者等の家族一時預かりへ事業】への対応をしていく。事業の内容について市や関係機関と綿密な打ち合わせをする必要がある。</p>

#### 4. 陸前高田市グローバルキャンパス 施設管理業務

実施範囲、期間	範囲: 陸前高田市 期間: 平成 29 年 4 月より開始
活動資金	業務委託料
事業目的	事業を通じ、新たな『縁』や『陸前高田市を訪れる動機付け』を含めた交流人口の増加促進、また同事業を遂行するための職員雇用や各種関連会社などへの業務契約、利用者による市内での消費活動など、陸前高田市全体における雇用促進と地域経済の活性化一助となることを目的とする。
受益者	陸前高田市を訪れる人々 陸前高田市市民
事業内容	・施設運営管理: フロント受付業務、施設運営、施設清掃、設備機器維持管理業務
今年度の営業実績	陸前高田市グローバルキャンパス運営機構との施設管理委託契約 業務委託料: 年間 4,317,224 円(人件費、諸経費含む) ※管理業務の内容については契約時の仕様による 平成 29 年 4 月 25 日開所 陸前高田市市民を嘱託職員 1 名・アルバイト 2 名、計 3 名雇用
今年度の目標に対する成果	<b>1. 開所および管理業務の適切化</b> <b>【目標】</b> ①管理業務のルーティン化 ②人材、数値のマネジメント  <b>【成果】</b> ①管理業務のルーティン化 嘱託職員を現場のリーダーとし、リーダーを中心に受付業務や施設清掃などの管理業務の内容を実践しルーティン化した。前年度運用の実績を鑑み、仕様部分も含め運用実態に合わせ、RTGC 運営機構と協議をしながら適宜対応している。 ②人材・数値のマネジメント(年間 12 回) 担当管理職が適宜施設を巡回することや、人材・数値のマネジメント業務を実施。また、月次の職員の労務管理や職員のリクルート活動なども実施。
今後の課題	<b>【管理業務の最適化】</b> 現場での事象をサンプルとして抽出し、月度で開催されているグローバルキャンパス運営機構役員会に報告。管理業務の最適化を目指し、そのことで次年度以降の委託契約につなげていく。

以上